

## 平成31年度病虫害発生予報第1号

長崎県病虫害防除所長

## 【予報の概要】

農作物名	病虫害名	発生程度	
		現況	予想
麦類	うどんこ病 赤かび病	少 並	少 並
ばれいしょ	疫病（平成30年度防除情報第20号継続） アブラムシ類 ジャガイモガ	並 並 やや多	並 やや多 やや多
トマト	黄化葉巻病（防除情報第1号） 灰色かび病 コナジラミ類（防除情報第1号）	やや多 並 多	やや多 並 多
いちご （本圃）	うどんこ病 灰色かび病 ハダニ類 アザミウマ類	並 やや少 並 並	並 やや少 やや多 やや多
かんきつ	そうか病 かいよう病 ミカンハダニ	— — 並	並 並 並
なし	赤星病 黒星病 アブラムシ類	並 並 やや多	並 並 やや多
果樹共通	カメムシ類	少	少
茶	カンザワハダニ チャノキイロアザミウマ クワシロカイガラムシ	やや少 並 並	並 やや多 並

## 【発生予報】

本文の（ ）内は平年値

## 麦類

## 1. うどんこ病

## (1) 予報内容

発生程度 少

## (2) 予報の根拠

ア 4月前期の巡回調査（大麦9筆、小麦15筆）の結果、大麦・小麦のいずれも発生を認めなかった（大麦：発生を認めない、小麦：発病莖率0.4%、発生圃場率3.3%）。

イ 4月3半旬の県予察圃場（無防除、諫早市）調査の結果、大麦・小麦のいずれも発生を認めなかった（発生を認めない）。

## 2. 赤かび病

## (1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

- ア 4月前期の巡回調査（大麦9筆、小麦15筆）の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。
- イ 4月3半旬の県予察圃場（無防除、諫早市）調査の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。

ばれいしょ

1. 疫 病

平成31年3月27日付け**平成30年度病害虫発生予察防除情報第20号**を継続。  
なお、その後の発生状況等については以下のとおりである。

(1) 発生状況等

- ア 4月前期の巡回調査（24筆）の結果、発生を認めなかった（発病株率0.0%、発生圃場率2.1%）。
- イ ジャガイモ疫病初発期予測モデル（FLABS長崎モデル：農林技術開発センター）によると、2月15日、3月1日、15日を出芽日とした予測初発期間は下表のとおりである。
- ウ 下表の予測初発期間を参考にして発病前に防除を行う。**平成30年度病害虫発生予察防除情報第20号**を参考に、的確で効率的な防除を行う。

表 31年産春作ジャガイモ疫病の初発時期（予測日） 平成31年4月15日現在

	2月15日出芽（50%）	3月1日出芽（50%）	3月15日出芽（50%）
	上段：初発時期 下段：効率的防除のための防除開始時期	上段：初発時期 下段：効率的防除のための防除開始時期	上段：初発時期 下段：効率的防除のための防除開始時期
大瀬戸	4/6～16 (4/1～3)	4/6～16 (4/1～3)	—
飯盛 注)4	4/19～29 (4/14～16)	4/19～29 (4/14～16)	—
大村	4/17～27 (4/12～14)	4/17～27 (4/12～14)	—
島原	4/1～11 (3/27～29)	4/1～11 (3/27～29)	4/22～5/2 (4/17～19)
口之津	3/21～31 (3/16～18)	3/31～4/10 (3/26～28)	4/21～5/1 (4/16～18)
平戸	4/18～28 (4/13～15)	4/18～28 (4/13～15)	4/23～5/3 (4/18～20)
福江	4/1～11 (3/27～29)	4/1～11 (3/27～29)	4/22～5/2 (4/17～19)
愛野 注)5	3/24～4/3 (3/19～21)	4/1～11 (3/27～29)	4/22～5/2 (4/17～19)

注1) FLABS長崎モデルにアメダス観測値を入力した結果

注2) 期日の上段は初発時期を示し、下段( )内は効率的防除を行うための防除開始時期を示す。

注3) 表中の「—」は4月15日までのアメダス観測値では初発時期を予測するための要件を満たしていないことを示す。ただし、出芽の早い圃場ほど発病の危険が高いので注意する。

注4) 飯盛は、農林技術開発センター（諫早市貝津）および川の防災情報（国土交通省江の浦川）の観測値による。

注5) 愛野は、農林技術開発センター馬鈴薯研究室（雲仙市愛野町）の観測値による。

## 2. アブラムシ類

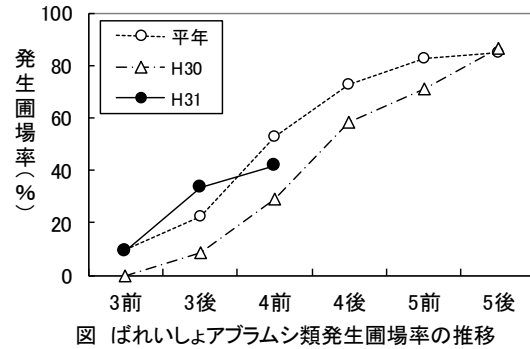
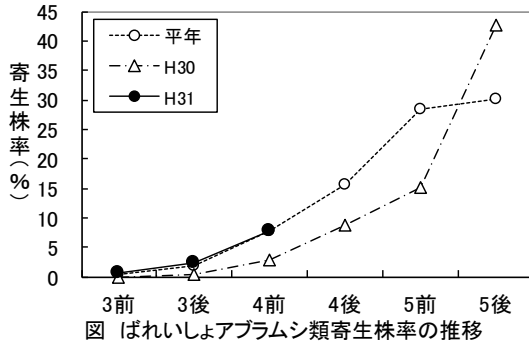
### (1) 予報内容

発生程度 やや多

### (2) 予報の根拠

ア 4月前期の巡回調査(24筆)の結果、寄生株率は7.8%(7.7%)、発生圃場率は41.7%(52.6%)であった。

イ 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり、本虫の発生に好適である。



### (3) 防除上注意すべき事項

ア ウイルス病を媒介するため、発生初期からの防除に努める。

イ 下位葉裏に寄生が多いので、薬剤散布においては葉裏に薬液が十分かかるよう注意する。

## 3. ジャガイモガ

### (1) 予報内容

発生程度 やや多

### (2) 予報の根拠

4月前期の巡回調査(24筆)の結果、被害株率は0.1%(発生を認めない)、発生圃場率は8.3%(発生を認めない)であった。

### (3) 防除上注意すべき事項

ア 栽培期間中に薬剤防除を行い本虫の密度低減を図る。

イ 畝表面に露出したいものに産卵するので、栽培期間中は土寄せを十分に行う。

ウ 掘り取りは日中に行い、掘り取ったものは長く圃場に放置せず成虫が活動し始める夕方までに屋内に収納する。圃場に残したくずいも等はできるだけ早く処分する。

エ 秋作用種いもを貯蔵する場合、貯蔵庫の開閉部や隙間からの成虫の侵入を防ぐとともに、貯蔵庫に収納したいものは寒冷紗、こも等で覆って成虫の侵入を防ぐ。

オ 貯蔵中に被害が発生した場合は、定期的に被害いもを除去する。

トマト

## 1. 黄化葉巻病

平成31年4月16日付け **病害虫発生予察防除情報第1号**による。

## 2. 灰色かび病

### (1) 予報内容

発生程度 並

### (2) 予報の根拠

4月前期の巡回調査(12筆)の結果、発病果率は0.0%(0.4%)、発病葉率は0.5%(過去6か年平均1.5%)、発生圃場率は50.0%(過去6か年平均38.9%)であった。

### 3. コナジラミ類

平成31年4月16日付け病害虫発生予察防除情報第1号による。

#### いちご

##### 1. うどんこ病

###### (1) 予報内容

発生程度 並

###### (2) 予報の根拠

4月前期の巡回調査(27筆)の結果、発生を認めなかった(発病株率0.1%、発生圃場率4.7%)。

##### 2. 灰色かび病

###### (1) 予報内容

発生程度 やや少

###### (2) 予報の根拠

4月前期の巡回調査(27筆)の結果、発病果率は0.04%(0.4%)、発生圃場率は11.1%(22.3%)であった。

###### (3) 防除上注意すべき事項

- ア 하우스内が多湿にならないよう曇雨天時や気温が低い日もできるだけ換気を行う。
- イ 被害果等の発病部位は伝染源となるので、早期に取り除きハウス外へ持ち出して適正に処分する。
- ウ 予防的な薬剤防除に努める。曇雨天が続く場合はハウス内湿度が上がるのを防ぐため、くん煙剤を利用する。
- エ 薬剤耐性発達防止のため、同一系統の薬剤を連用しない。

##### 3. ハダニ類

###### (1) 予報内容

発生程度 やや多

###### (2) 予報の根拠

- ア 4月前期の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は7.4%(9.0%)、発生圃場率は59.0%(46.4%)であった。
- イ 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

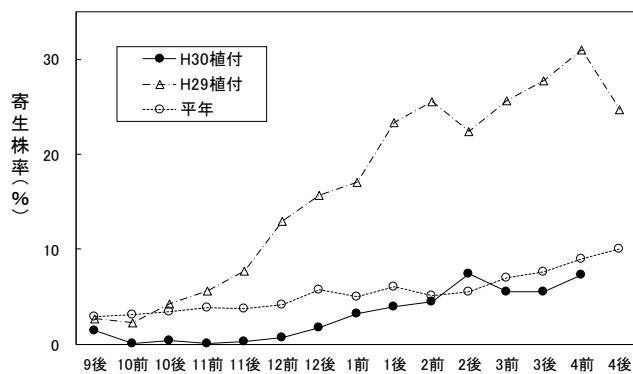


図 いちご ハダニ類 寄生株率の推移  
平年: H20~H29の平均値(最大・小値除く)

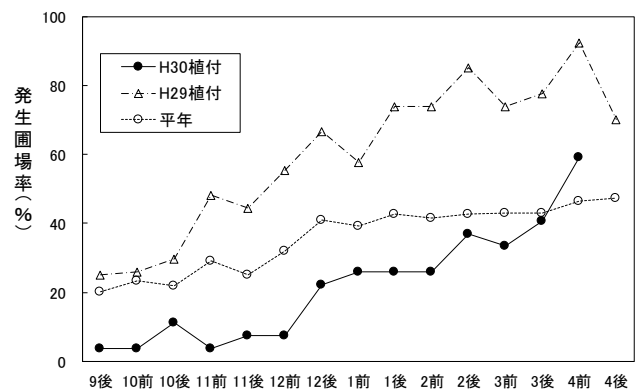


図 いちご ハダニ類 発生圃場率の推移  
平年: H20~H29の平均値(最大・小値除く)

###### (3) 防除上注意すべき事項

- ア 下葉の裏に多く寄生するので、薬液が葉裏に十分かかるように丁寧に散布する。特に「ゆめのか」は「さちのか」よりも茎葉が繁茂しやすく、農薬が葉裏まで十分かかりにくいいため注意する。
- イ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統の薬剤を連用しない。

#### 4. アザミウマ類

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 4月前期の巡回調査(27筆)の結果、寄生花率は5.6%(過去3か年平均 6.6%)、発生圃場率は63.0%(過去3か年平均 65.4%)であった。

イ 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 施設外から成虫の飛び込みが多くなる時期なので、施設周辺の雑草を除去する。

イ 発生が多くなってからの防除は困難なので、早期発見・早期防除に努める。

ウ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統の薬剤を連用しない。

### かんきつ

#### 1. そうか病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

3月後期の巡回調査(36筆)の結果、旧葉での発病葉率は0.1%(0.0%)、発生圃場率は5.6%(2.9%)であった。

#### 2. かいよう病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

3月後期の巡回調査(36筆)の結果、旧葉での発病葉率は1.1%(0.1%)、発生圃場率は25.0%(7.6%)であった。

#### 3. ミカンハダニ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

4月前期の巡回調査(36筆)の結果、寄生葉率は2.8%(2.4%)、発生圃場率は19.4%(22.2%)であった。

### なし

#### 1. 赤星病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

4月前期の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は0.0%(0.0%)、発生圃場率は8.3%(2.1%)であった。

#### 2. 黒星病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

4月前期の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発病葉率 過去10か年平均 0.0%、発生圃場率 同0.8%)。

(3) 防除上注意すべき事項

ア スピードスプレーヤーで散布する場合は全列走行とし、圃の周囲等で薬液が到達しにくい場所は手散布を併用する。

イ 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤は連用しない。

ウ 発生した葉や幼果は除去し、園外へ持ち出して適正に処分する。

### 3. アブラムシ類

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

4月前期の巡回調査(12筆)の結果、寄生新梢率は0.8%(0.4%)、発生圃場率は66.7%(16.7%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

感受性が低下しやすいので、同一系統の薬剤は連用しない。

## 果樹共通

### 1. カメムシ類

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

1月に実施したチャバネアオカメムシの越冬量調査の結果、常緑広葉樹林の落葉中の虫数は0.06頭/m<sup>2</sup>(0.34頭/m<sup>2</sup>)と平年より少なかった(平成31年2月18日付け**平成30年度病害虫発生予察技術情報第2号**参照)。

## 茶

### 1. カンザワハダニ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 4月前期の巡回調査(16筆)の結果、寄生葉率は0.2%(2.2%)、発生圃場率は18.8%(36.7%)であった。

イ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

### 2. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 4月前期の巡回調査(16筆)の結果、たたき落とし虫数(5回×4カ所あたり)は3.6頭(4.8頭)、発生圃場率は93.8%(70.3%)であった。

イ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

感受性が低下しやすいので、同一系統の薬剤は連用しない。

### 3. クワシロカイガラムシ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

4月前期の巡回調査(16筆)の結果、寄生株率は4.4%(5.2%)、発生圃場率は37.5%(46.9%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア ふ化直後の薬剤散布が最も防除効果が高いので、病害虫防除所から4月下旬に発表予定の「クワシロカイガラムシ第1世代のふ化盛期予測日」を参考に薬剤散布を行う。

イ 株内の枝や株元に薬液がかかるように十分量散布する。

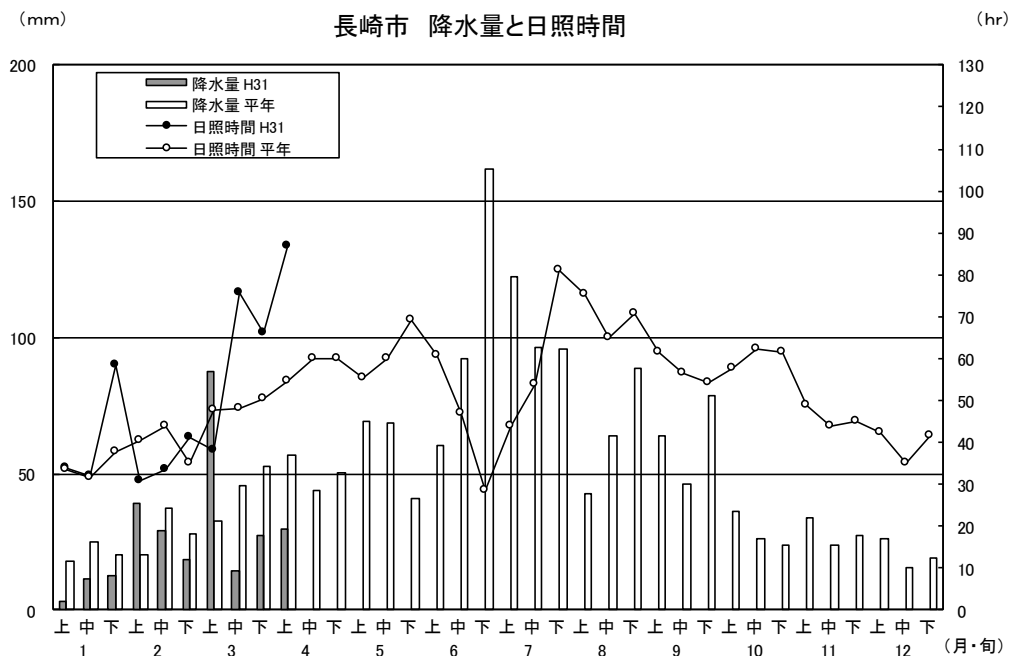
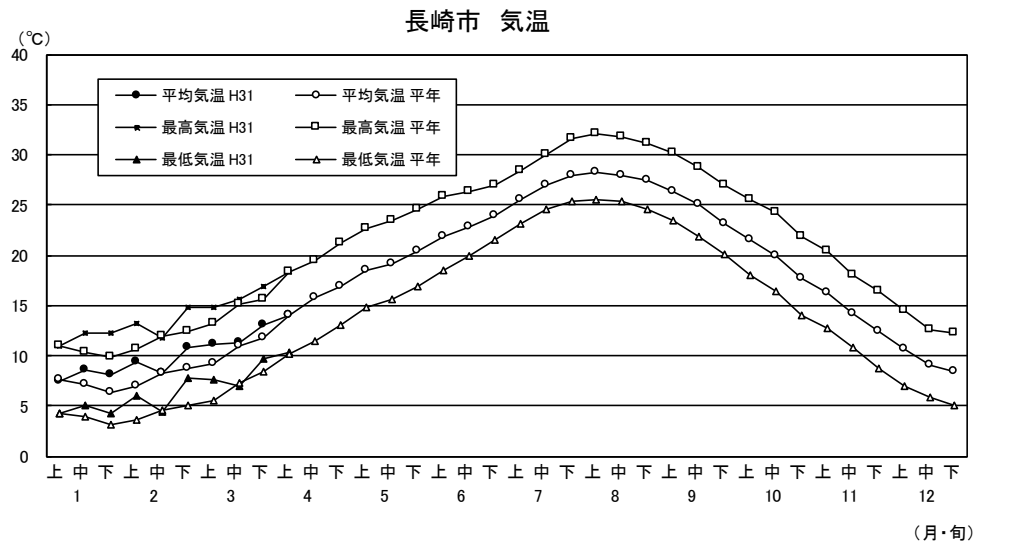
【参考】

(平成31年4月12日発表 1か月予報 福岡管区気象台)  
要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	20	30	50
降水量	30	40	30
日照時間	30	40	30

※予報対象地域：九州北部地域

平成31年の気象経過（長崎地方気象台）



○長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県防除所ホームページ」アドレス：<http://www.jpnpn.ne.jp/nagasaki/>

○この情報に関するお問い合わせ

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027

